

1 前回会議のふりかえり

(1) 前回会議での主な意見や質問について

- ① 重要性や実現性の結果では、福祉・健康づくりの分野の取り組みが漏れているが、自分としては大事だと思っている。
- ② 重要性や実現性も大事だが、できることからやっていき、まちづくり協議会の存在を示していくことも大事ではないか？
- ③ 自治会で既にごみゼロ運動を行っているが、どういうことなのか？
- ④ グループに分かれて、担当分野を決めて検討した方が早いのでは？
- ⑤ まちづくり協議会の設立は、いつぐらいを目指しているのか？

(2) 意見や質問から見える疑問点について

- ① 取り組み項目の取捨選択に関するもの 【(1)-①、②、③、④】
- ② 取り組み項目の具体的な実施に関するもの 【(1)- ②、③、④】
- ③ 設立までの見通しに関するもの 【(1)- ②、 ④、⑤】

※この先どうなるのか、よくわからない???

2 検討事項

(1) 取り組み項目の絞り込みを委員の総意で進めるために

- ① グループで検討するか、全員で検討するかについて

【事務局提案】

3グループ(各7名)に分かれて検討する。

【提案理由】

グループ分かれることによって、多くのメリットが見込まれるため。

- 1) 多くの委員の発言機会が見込める
- 2) 発言へのハードルが下がる
- 3) 比較的時間を要せず全員へ発言を促すことが可能
- 4) 議論の多様性が見込める
- 5) 支援職員が各グループの意見引き出し役として、活躍することができる
- 6) 少人数のため、会場の分散も可能
- 7) 比較的意見集約が容易 など

②担当分野を決めるか、全分野を検討するか

【事務局提案】

全分野に対して全グループが検討する。

【提案理由】

全ての分野を検討することにより、今後も委員の総意で検討を進めることができるため。また、いろんな分野の人材の意見を引き出すことより活発な意見交換や新たなアイデアにつながると考えられるため。

(2)疑問点を解消するための明確化について

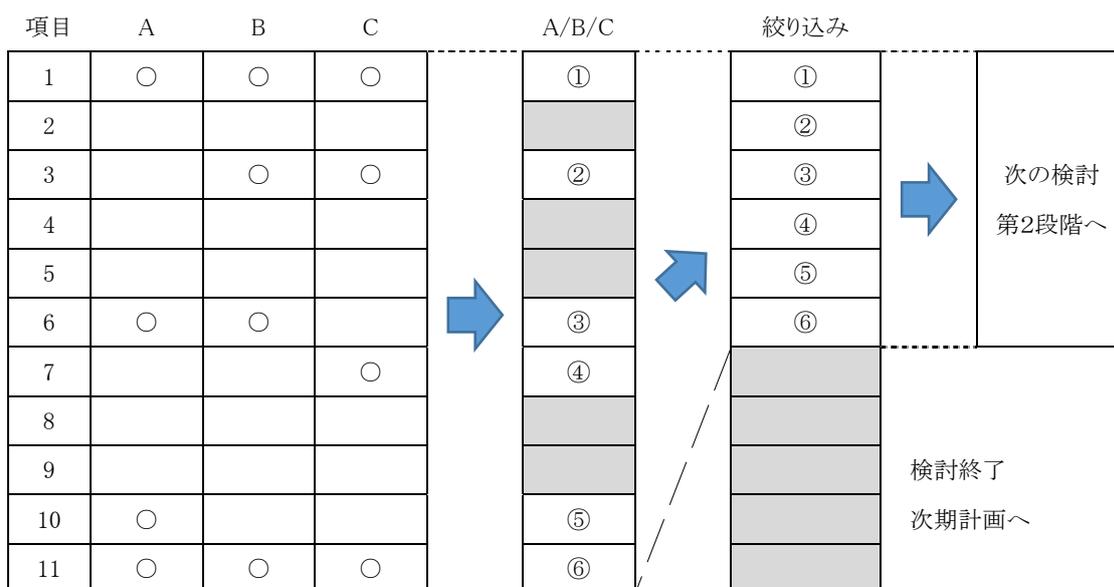
①取り組み項目の取捨選択の目安やルールについて

検討の手順[第1段階]＝取り組み項目を決定する

【目安やルール】

- 1) 各グループで採択した取り組み項目は、すべて次の検討段階に進む
- 2) 3年以内に取り組めるもの、取り組むべきものを優先する(コロナも意識する)
- 3) 各分野から必ず1項目は選択をする
- 4) イベント系、広報 SNS 系、マップ作成系など、項目のバランスを意識する
- 5) 取捨選択する際は、他のグループにもわかるよう必ず理由を書く
- 6) 支援職員の進行の下で検討を進める
- 7) 絞り込みで漏れた項目は、次期計画の材料としてストックしておく

【イメージ図】



②取り組み項目の具体的な実施に向けた作業手順について

検討の手順[第2段階]=[取り組み(事業)内容を検討し決定する]

【提案手順】※資料3-1参照

- 1) 支援職員の進行の下、取り組み(事業)毎に具体的な事業内容の意見を出し合う
 - 2) 取り組み項目数が多い場合は、集約や除外、計画の後ろ倒しを検討
 - 3) 取り組み(事業)内容が出揃ったら、より具体的にイメージして実施主体や実施年度を記入し、表を埋める
 - 4) 全体像を見て実施可能な計画となるよう調整し、事務局へ提出
 - 5) 各グループの完成した表をもとに、事務局でとりまとめ案を示す
 - 6) グループで共通する部分と異なる部分を全体会で検討・決定していく。
- ※今後のとりまとめや次期計画のために、集約や変更、除外などを行った場合は必ずその理由を記録しておく

【46 地域一斉ごみゼロ運動の実施】の集約例

- 1) 取り組み(事業)内容
 - ・年4回開催する ・年1回開催する ・自治会に任せてまち協ではやらない
 - ・主な自治会の実施日に合わせて、全自治会で開催するよう周知する
 - ・資源回収も同日実施する ・ごみゼロポスターを作成する
 - ・年1回は公園清掃の日にする
- 2) 46 ごみゼロ運動と 47 公園美化清掃と 48 ごみをなくす啓発活動を1つに集約して、【まちピカ活動の実施】に名称を変更する(集約理由を記録する)
- 3) R3 自治会と同日でごみゼロ開催 [担当:自治連合会と広報担当]
R4 自治会と同日でごみゼロ開催、公園清掃実施開始
R5 自治会と同日でごみゼロ開催、公園清掃実施、ポスター掲示開始
- 4) 計画全体を見て調整の上、事務局へ提出する
- 5) 各グループのまちづくり計画 取り組み分野の体系図を事務局で調整する

(3)次回以降の検討の進め方について(※これまでの説明を踏まえて)

次回から、3グループ(各7人)に分かれて、支援職員5名でグループそれぞれの意見出しのサポートをしながら意見集約を行う方法で、絞り込み項目の検討をする。メンバーについては、バランスを見ながら事務局で振り分ける。

■スケジュール(案)

会議	検討内容
1回目 (11月下旬)	取り組み項目の絞り込み【第1段階】【1回目】 ①防犯(15) ⑤防災(6) 合計 21項目
2回目 (12月中旬)	取り組み項目の絞り込み【第1段階】【2回目】 ②交通安全(3) ③子育て・青少年の育成(3) ④福祉・健康づくり(5) ⑦環境(8) 合計 19項目
3回目 (1月中旬)	取り組み項目の絞り込み【第1段階】【3回目】 ⑥地域の交流・活性化(13) ⑧地域活動の参加者・担い手(6) 合計 19項目
4回目 (2月中旬)	取り組み項目の決定 取り組み内容の検討【第2段階】【1回目】
5回目 (3月上旬)	取り組み内容の検討【第2段階】【2回目】

【依頼事項】※資料②参照

絞り込み項目について、各回とも事前に用紙を送付するので、採択か、不採択を委員それぞれが事前に検討いただき、その理由を用紙に記入した上で、準備会に臨んでください。

※前回会議資料の重要性や実現性、準備会構成団体による既存のまちづくり活動、地域課題の解決などを念頭に置き検討することが重要です。

【次回会議の進め方】

- ①記入用紙を委員全員が持ち寄った上で、意見交換をします。
- ②意見交換を経て、最終的にグループとしての採択・不採択を決定します。
(1回の会議あたり約20項目検討:1項目4分で80分、5分で100分)
- ③各委員が持ち寄った用紙は、意見交換後各グループの支援職員に提出します。
- ④支援職員は、グループでの採択・不採択の決定に関わった特に重要と思われる意見(決定の決め手になった、全員一致、判定が覆ったなど)には印をつけて事務局へ提出します。
- ⑤事務局で印を参考にしつつ、意見のとりまとめをします。